二〇二一年三月一三日

何処ゆくも夫唱婦随や山笑ふ　うつぎ

陽炎の中より電車現れぬ　宏虎

金継ぎの夫婦湯呑や春炬燵　かかし

無造作に山独活くるむ新聞紙　素秀

部屋中に香りを広ぐ蕗の薹　わかば

揚雲雀空の深さを思ひけり　小袖

阿羅漢の泣くも笑ふも春埃　うつぎ

牛車の輪はずれしままに雛飾る　よし子

春光や寺に跡継ぎ誕生す　はく子

孔のみの埴輪のまなこ春寒し　はく子

強剪定されて棒がし潔し　せいじ

啓蟄やカルチャー講座申込む　よう子

朝散歩ちよつと道草蓬摘む　こすもす

啓蟄や木の根あらはに切通し　はく子

燕来る日なり新居に若夫婦　素秀

真すぐなる雨まつすぐに名草の芽　よし子

本棚に紙雛飾り立子の忌　よし子

菜の花の丘に沖向く忠魂碑　よう子

前髪を垂らし遍路の顔見せず　なつき

春光のせせらぎ沿ひに通院す　むべ

客として訪ふ生家彼岸寒　うつぎ

磐座へ辿る岨道落椿　わかば

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年三月一四日